

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	シルクのまちづくり推進事業
事業主体 (連絡先)	市立岡谷蚕糸博物館 岡谷市郷田1-4-8
事業区分	(6) オ その他地域の特色及び個性を活かした産業振興並びに雇用拡大に資する事業 (3) 教育及び文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,569,552円 (うち支援金: 1,987,000円)

事業内容

現状では、私たちの生活の中でシルク製品を身に纏うことは少なくなってしまうが、ファッション界では、今なおシルクの魅力を発信し続けているクリエイターも多く、その第一人者であるデザイナーの桂由美氏のほか、著名な友禅作家や研究者を招き、パネルディスカッションやファッションショーを行うことで、改めてシルクの魅力を全国に発信し、岡谷市民はもとより多くのシルク関係者の参加を促し、シルク産業復興の一助とする。

また、「シルクおかや次世代担い手育成プログラム」では、養蚕からファッションなどのものづくりの分野での製品化に至る工程を自らが体験する場を提供し、シルク岡谷の将来を担う人材の掘り起こし及び育成に資する。



【担い手育成事業】

【目標・ねらい】

- ①シンポジウム・ファッションショーへの市民及びシルク関係者の参加推進及びシルク文化の啓発
- ②担い手育成プログラムへの市民参加の促進及び将来の担い手候補の掘り起こし、育成

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①8/21にカノラホールで行われたシンポジウム及びファッションショーには、全国各地から1,000人の方のご来場をいただき、シルクの魅力を共有することができた。また、如何にシルクの魅力を発信して行くか、といった課題に対し、素材の良さを理解し、それを活かして、魅力ある製品に仕上げていくためのデザイン力の重要性を認識することができた。

②3年間を通しての取組みのうち、初年度は初歩的なお話や体験講座に終始したが、それでも1回の開催当たり30人以上のご参加をいただき、令和2年度以降のプログラムにつなげることができた。

※自己評価【A】

【理由】本事業を通じ、岡谷市のシルクに対する強い思いを桂由美氏をはじめ多くの参加者に理解していただいた。今後の事業展開にあたり、協力や連携についても期待が持てる内容となった。

今後の取り組み

シルクの優れた特性を啓発し、その魅力を作品展示を通じて発信して行くといった取組みについては、今回パネリストを務めていただいた友禅作家の千地泰弘氏の企画展を令和2年度に博物館の自主事業として開催することで、継続して取り組んでいく。

また、担い手育成については、来年度以降、三沢区民農園や宮坂製糸所、岡谷絹工房、諏訪実業高校といったところの協力を得て実施するなど、連携のネットワークをさらに広げて、地域(ヒト・モノ・コト)を巻き込んだ活動として、さらには地域主体の活動として発展させていきたい。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある